

平成30年度 市民活動サポートセンター主催の事業(途中経過)

資料 4

	タイトル（内容）	現 状	課 題	目 的	期待される効果	結 果
講演会	市民や市民公益活動団体による講演会（サポートセンター 共催）	・サポートセンターが、市民や団体が必要と考える内容を企画し開催	・団体が求めている内容と相違している ・参加者が少なく、又、特定の人の参加となっている	・各団体が必要と感じているテーマで自ら開催することにより、同じ課題を持つ団体と意識共有を図る	・他の団体と課題の共有ができ、課題解決へとつながる ・団体目線での講演により、参加者増につながる	・平成30年7月 市民活動講演会 特定非営利活動法人ぎょうだ市民Sネットと共催で開催 「地域のチカラでまちづくり」 ～コミュニティカフェ幸茶店ができるまで～ 参加者 22名 共催として市民活動講演会に参加することにより、行田市にはまだない団体の活動を認知出来た
人材	市民が、市民活動・ボランティアに参加するきっかけ作り	・市民活動への参加者が少ない	・参加する意欲はあるが、行動に移せない。 ・団体メンバーの高齢化や人材確保が難しい 現状で活動の継続が困難となってきた。	・市民活動をしていない人へのきっかけ作り ・若い世代や退職者世代を市民活動に巻き込む ・団体の人材確保	・市民の市民活動参加が増える ・団体の活動が継続される ・団体の人材が確保されることにより、団体活動が継続される	・団体名の入ったみずしるフェスタのチラシを小・中学校に配布したことによりみずしるフェスタの認知度が上がり、市民と団体とのマッチングが出来た ・来場者数が昨年に比べ1.7倍に増え、1,784人となり、子どもを含めた若い世代の姿も多く見受けられた
意見交換会	様々な団体との交流機会の創出	・団体間の交流の場がない	・交流する機会が少ないことから、情報や課題の共有が出来ず、活動が行き詰っている団体がある	・様々な団体と交流し、情報交換することにより、団体が抱える課題を解決する糸口を見つける	・顔の見える交流をすることにより、活動の幅が拡がり、協働への事業実施に繋がる ・他団体が、違う視点で課題を発見することができる ・団体同士での繋がりができ、活動していくうえで、活動の幅が拡がる	・みずしるフェスタや実行委員会を通して、繋がりのない団体をマッチングし、新たなネットワークの形成をした ・平成30年7月 市民活動講演会第2部にて他団体の活動を認知出来た ・平成31年2月 助成金活用発表会第2部にて、交流会を開催予定
活動発表会	みずしるフェスタの継続開催	・11月に開催(時代まつりと同日開催) ・コミュニティセンターみずしるの1階ギャラリーでの開催 ・固定した団体しか出展しない	・出展団体の固定化 ・出展団体の減少及び来場者数の伸び悩み	・フェスタの認知度の向上による参加団体の増加 ・市民活動の認知度の向上	・団体同士の交流が図られ、活動の幅が拡がる ・コミセンみずしるが多く団体に利用され、利用率があがる ・市民が市民活動を知る機会が増え、市民活動が更に活発になる	・コミュニティセンターを全館(1F・2F)使用し、出展団体が22⇒33団体に増える ・来場者数が昨年に比べ1.7倍に増え、1,784人となった(H29年1,029人) ・実行委員会を5月～10月まで毎月開催し、フェスタの内容を市民団体主体の自主的な意見として、形に出来た
	活動報告会	・平成30年2月に第6回市民活動講演会「いきいきボランティア講座」の後、5団体の活動報告会を開催 ①特定非営利活動法人 行田結婚支援センター ②特定非営利活動法人 ふるさと創生クラブ ③行田観光ボランティア会 ④行田ゼリーフライ研究会	・活動を知る機会がなく、又、はじめのきっかけが出来ない	・活動を知ってもらうことにより、市民への活動を始める足がかりを作る	・色々な人と共通認識を持つことができる ・他団体の活動を知ることにより自分達の活動の幅が広がる ・活動を知ることにより、団体に参加し、市民活動が活発になる ・活動を知ってもらうことにより、活動へのモチベーションアップへとつながる	・平成30年7月 第7回市民活動講演会後、3団体の活動報告会を開催 ①NPO法人CILひこうせん ②特定非営利活動法人キャンパー ③社会参加サポートネットプランチ 様々な分野の団体が集まり活発な意見が交わされ、有意義な交流会となった ・平成31年2月 助成金活用団体の成果発表会を開催予定
情報の収集と発信	団体やイベント情報の発信	・サポセン通信の発信 ・イベントのチラシ及びポスターの掲出	・サポセンの認知度が低いため、サポセンにチラシやポスターを掲出しても周知に繋がらない	・サポートセンターの認知度向上及び市内活動団体やイベントのアピールの場の検討	・多くの人に目に触れることにより、イベントの参加者が増え、団体のモチベーションアップにつながるのと共に、サポセンの認知度もあがる	・行田市社会福祉協議会と連携 エコキャップ回収場所としてサポートセンターを提供 市民が身近に立ち寄れる場所となり、サポートセンターの認知度が上がる ・チラシやポスターの効果が昨年と比べてUPした